
終章

新たな時代へ向って

1. 時代の転機に立って

『創業百年史』を繙き、そして、これまで述べてきた創業百年以降、今日に至るあゆみをみると、その過程は必ずしも平坦ではなかった。むしろ、絶えざる自己革新による苦難克服の道程であったといえよう。

いま、われわれは21世紀を目前にして、大きな転機に立たされているが、これからの時代を拓き開いていくとき、当行110年の歴史に学ぶべき多くの事柄を見出すことができるのである。

ところで、われわれが直面している転機とは何か。以下、この小史の結びとして、転機の諸相を略述し、当行の取り組むべき経営課題を示すこととしたい。

まず、国際的な視点でみると、明治この方、欧米諸国に追い付くことを“国是”としてきたわが国は、経済・産業などの面で、いまや欧米諸国に比肩するまでに至った。今日みられる円相場の急騰、経済摩擦の激化は、比肩から凌駕の過程で生じた痛みともいべきものである。

金融の国際化、自由化もまさにその一側面とみなすことができよう。ボーダレス・エコノミー（国境のない経済）という、新しい用語さえ生まれているように、21世紀に向けて経済、産業、金融など、あらゆる面において国際的な同質化を迫られ、激しく揺れ動くものとみられる。金融機関経営にあって、象徴的な課題となっているのが、自己資本比率規制の問題である。

一方、国内に目を転じると、数年前に経済審議会が「2000年の日本」でいみじくも規定したように、わが国の経済社会に現われている諸相は、成熟化、高齢化、国際化である。そして、これに加うるに情報化がある。21世紀に向って、この四つの変化を軸に、構造変化を迫られるものとみられる。

第四次全国総合計画の焦点となった、東京一極集中の是正も、いわば、この範疇に属するものである。

21世紀まで、あとわずか十数年を残すのみとなった。以上みてきた変化の諸相はまさに、時代が転機に立っていることを示す何物でもない。こうした厳しい経営環境の中であって、当行は何を経営課題とし、それにどう取り組むべきであろうか。

2. 新たな時代へ向って

銀行監督規制と、自己資本比率の国際統一基準づくりを検討してきたBIS(国際決済銀行)は62年12月、クック委員会提言として合意内容を公表した。

自己資本の内容と自己資本比率の基準統一は、競争条件の均等化と、経営体質比較レベルの共通化をめざしたものであって、経過措置・経過期間を設けながら、これらの課題を解決しなければならないとしている。

これにより、わが国の金融機関は量重視から質重視への転換、財務内容の充実と収益力の向上が強く求められることになった。当行はこれに対し、良質な運用資産の確保、収益の向上、自己資本の充実を、いわば三位一体として考え、適切な経営戦略の策定と、リスク管理手法の導入とによって対応していくものである。

また、金利自由化に対しては、マーケティングを重視し、一方において、新商品の開発、顧客ニーズにマッチする諸サービスの提供により、可能な限り低コスト資金の吸収に力を注ぐとともに、コストに見合った資金運用を図っていくきめ細かな融資サービスの開発を、融資戦略の根幹に据えていくことにしている。同時に、調達した資金の運用にあたって、ALM(資産負債総合管理=Asset Liability Management)手法を導入し、資産の最適効率運用を図り、金利リスク・信用リスク・流動性リスク・為替リスク・EDPリスク等の諸リスクを従前にまして正しく把握し、これを機動的にコントロールすることに意を注ぐものである。

さらに、現在当行は勘定系、情報系両面の充実を期し、第3次オンラインの構築をすすめている。これは、多様化し、高度化する顧客ニーズに対し、情報等諸サービスを提供するとともに、事務コスト低減、収益管理の徹底を図るためのものである。今後、エレクトロニック・バンキングの流れは、いっそう加速するものと思われる。この対応の遅速が当行の進路を決定づけることになりかねないことから、システムを充実・強化して生き残り戦略の柱とする必要がある。

先述したように、経営環境はますます厳しさを加えるものとみられるが、これを乗り切るには、時代の変化に対応できる人材の確保が最優先の課題である。柔軟な適応力、果敢な行動力をもった人材はいつの時代にも求められる人材の基本条件であるが、今日ほどそれを必要とするときはない。

人材の育成は、一朝一夕にしてなるものではない。それには、丹念さと、持続的な経営意志とがなければならない。64年2月に完成する研修センターを人材育成の拠点として、これを中心に「米百俵」の精神を活かし、将来を展望した有為の人材を育成することとしたい。

当行は創業以来、地域社会、地域経済と哀歓をともにしてきた。見方によっては、110年の歴史は、その記録ともいべきものである。しかし、地域社会、地域経済は、時代の変化とともにその相貌を変じつつある。新幹線・高速自動車道の開通による交通体系の変化、円高、アジアNICSの台頭による、輸出型地場産業の構造変化、貿易摩擦に端を発した農産物の自由化要求と米作農家の帰趨など、いずれをとつても地域社会、地域経済の盛衰にかかわるものである。

これら環境条件の変化の下で、地方銀行が地域に果す役割、責務はますます増加し重大性を増そう。

当行は、これら責務に応え、広く金融サービスを提供する地域金融機関として、地域社会から信頼され、必要とされる銀行であることをねがい、役職員一同心をひとつにして、新たな時代へ向って、北越銀行の新しい歴史を築くべく、心を新たにのぞむものである。